

曹操孟徳

人を集め、食べ物を集めた



中国が魏・蜀・呉の三つの国に分かれて争っていた時代を、三国時代と言います。その中で一番強かったのが魏で、そのもとをつくったのが曹操孟徳でした。

曹操は若いころ、決まりを守らず遊んでばかりいました。周りの大人たちは「たいした者にならない」と話していました。

（ア）、大人になった曹操のもとには、すぐれた人が次々と集まりました。曹操は人を集めることが上手だったのです。もとは敵だった者も、才能があれば家来にしました。曹操について悪く書いた人でも、文章が上手ければ許したと言われています。

曹操は、兵の心をつかむのも上手でした。ある夏、遠くまで軍を進めたとき、水がなくなって兵たちが歩けなくなりました。曹操は言いました。「この先に梅の林がある。すっぱい実がたくさんなっているぞ」。兵たちは梅のすっぱさを思い出して、口の中につばが出てきました。のどのかわきが少しおさまり、また歩き出したそうです。

曹操は、戦いに勝つには食料が重要だと考えていました。（イ）、兵に田畑を耕させ、自分たちの食べる物を自分たちで作らせました。戦いの最中に食料が切れて負ける軍が多かった時代です。これは大きな武器でした。

その重要な食料が、大きな戦いで曹操を勝たせる要因になりました。それは二〇〇年、中国の北側の大きな力・袁紹との戦いの時です。袁紹軍の兵の数は曹操軍の十倍だったと伝えられています。（ウ）、曹操軍は夜間に袁紹軍の食料庫を焼き、長期戦をできなくさせました。その結果、曹操軍は少ない兵で袁紹軍を破りました。

中国の北側をまとめた曹操は、次に南側をねらいました。二〇八年、のちに蜀を治める劉備と、呉を治めていた孫権の連合軍と赤壁（今の中国・湖北省のあたり）で戦い、大きく負けました。この戦いで中国は三つの国に分かれ、曹操が中国を統一することはできませんでした。

戦いに明けくれた曹操には、もう一つの顔がありました。詩です。その詩は千八百年たった今も読みつがれています。亡くなる前には、家族にこんな言いつけを残しました。「家に残っているお香は、妻たちで分けなさい。生活に困ったら、くつを作って売りなさい」。最後に心配したのは、国の行く末ではなく家族の暮らしでした。

選択(1)

曹操について、文章の内容に合うものはどれですか？
選んで○をつけましょう。

- ① 若いころから決まりを守る、まじめな子どもだった
- ② 兵に田畑を耕させ、食べる物を作らせた
- ③ 赤壁の戦いで劉備たちを破った

選択(2)

文章の（ア）～（ウ）に入る言葉の組み合わせはどれですか？

選んで○をつけましょう。

- ① ア…つまり イ…たとえば ウ…そのうえ
- ② ア…ところが イ…そこで ウ…しかし
- ③ ア…やがて イ…それでも ウ…ところで

記述(1)

水がなくなって兵たちが歩けなくなったとき、曹操はこの先に何があると言いましたか。文章中から書き出しましょう。

記述(2)

曹操が、自分について悪く書いた人を許したのはなぜですか。文章をもとに書きましょう。

漢字

漢字に直して書きましょう。

(1) きそく

(2) ひはん

(3) えいきゅう

こたえ

曹操孟徳

選択 せんたく

(1) ②
(2) ②

(2) アⅡところが／イⅡそこで／ウⅡしかし

記述

(1) 梅の林

(2) その人の文章が上手だったから

(2) は同じ意味が書けていれば○です

漢字

(1) 規則

(2) 批判

(3) 永久